

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	柿田 明梨
論文担当者	主査 木村 卓
	副査 新村 健
	副査 八木 秀司
学位論文名	Relationship Between Medial Temporal Lobe Atrophy Assessed by Voxel-Based Morphometry and Body Composition in Elderly Japanese Subjects (日本人高齢者における Voxel-Based Morphometry で評価した内側側頭部萎縮と体組成の関連)
<p>世界的に高齢化が大きな社会問題となっている中、認知機能低下や骨格筋量減少などに対応することが重要となっている。体組成と脳萎縮との関連についてはいくつかの報告がなされているが、日本人高齢者を対象とした研究はほとんどない。本研究の目的は、日本人高齢者を対象とし、体組成と脳萎縮との関連について検討することである。</p> <p>2013年から2020年にかけて西宮渡辺病院整形外科を受診し、i) Voxel-based Specific Regional Analysis System for Alzheimer's Disease (VSRAD<sup>®</sup>)による脳萎縮評価、ii) 二重X線エネルギー吸収測定法(DXA)による脂肪量(FM)、除脂肪量(FFM)、骨格筋量指数(SMI)測定、iii) DXAによる骨密度測定を行った65歳以上の患者を対象とし、後方視的に検討した。VSRAD<sup>®</sup>は、MRIのT1強調画像から灰白質(GM)と白質を抽出し、自動解析によって脳の萎縮度を評価するソフトウェアである。本検討では内側側頭部のZスコアおよびGM萎縮度について検討を行った。</p> <p>結果は中央値(四分位範囲)で示す。対象者は82名(女性70名、男性12名)、年齢は83(78-87)歳であった。FM値に基づいて対象者を3分位によって分割し、検討を行ったところ、FMの増加とともにZスコアは有意な減少を認めた(P=0.002)。同様の検討をFFMに対して行ったが、FFMの増加に対してZスコアは有意な変化を認めなかった(P=0.362)。内側側頭葉萎縮を目的変数、FMやFFMなどを説明変数としてロジスティック回帰分析を行った結果、FMは内側側頭部萎縮と有意な関連を認めることが示された(オッズ比: 0.790、95%信頼区間: 0.657-0.951, P=0.013)。</p> <p>日本人高齢者においてFM低下は内側側頭部の萎縮と関連することが明らかとなった。ただし、本研究は単一施設の後方視的研究であり、さらなる検討が必要である。</p> <p>この研究は体脂肪と内側側頭葉の萎縮の関連を明らかにしたものであり、高齢者の栄養管理の方向性を示すものである。学位授与に値するものと判断した。</p>	